

七参考

(1) 戦訓

第三類 用兵

(一) 敵ノ優勢ナル索敵力ノ撃滅ハ目下ノ急務ト認メラル、處少クトモ  
作戦行動開始直前ニ、部兵力ヲ以テ敵基地ニ對スル  
連続夜間空襲敢行ノ要アリ

(二) 今次戦闘ニ於テ第一遊撃部隊指揮官ニ直接指揮シ得ル  
航空部隊ヲ有セバ更ニ大ナル戦果ヲ收メ得タルベシ

第九類 砲戦及関係兵器施設

(一) 砲戦用電探魚雷戦用電探ノ使用區分ヲ平素ヨリ確立シ置  
クヲ要ス

砲戦用電探魚雷戦用電探ヲ別個ニ裝備スルハ最モ望マンキ  
所ナルモ不可能ナラズ之カ使用區分ヲ明瞭ナラシメ置クヲ要ス

今次戦闘に於て對空戦闘中、砲雷同時戦となり敵空母に對し砲戦魚雷戦實施シテリタル所射撃目標ヲ驅逐艦ニ變換砲雷異目標トリ且目標ハ烟幕ニ入りタル際電探艦逐艦測的ヲ開始セルモ目標多かりト訓練未熟ナルタメ迅速ニ電探射撃ヲ轉換シ得ズ目測ニ射撃ノ後中止セリ又發射ノ概テ目測距離ヲ使用ス此際砲戦用魚雷戦用電探ヲ区分シ置キ平素ヨリ訓練シ置カハ卓板ナルハ皆測的ヲ利用セル射撃ヲ射ニ轉換シ得タルモノト認ム

(二) 射撃用電探ノ精度向上ヲ要ス  
敵烟幕ニ入りタル際平素ノ電探成績特ニ左右精度信頼セルニ足ラサルモノテリシタメト目標混同ヲ懼レ電探射撃ヲ企圖セルモ自信ナキタメ實施スルニ至ラズ敵艦ノ位置程度精度アラバ測距儀ト併用射撃艦ニ注入シ或ハ電探測距ノミヲ使用シ成果ヲ

擧ゲタルモノト認ム

(三)探知機利用價值極大ナルモノアリ

二十四日二十五日二十六日對空戦ニ於テ敵機ノ初期發見ハ探知機ニシテ之ガ探知状況ヨリ凡ノ敵機ノ攻撃ヲ企圖ヲ察知スルヲ得ベシ初メ敵觸接機ランキ電波一七五MHz音色ヲ感ニ乃至三ニテ探知レ電探ニテ

探信ノ結果四ノ料乃至六ノ料ノ所ニ單機ノ反射波ヲ得暫クシテ同方ニ大編隊ヲ探信ス敵編隊約四ノ機程度ノ分散攻撃ヲ移ル前後探知機捕捉電波感度急ニ消滅セル特異現象ヲ再度認ムタリ

(四)視界狭少時於テ電波探知機見張射撃ヲ機関ノ緊密ナル連絡ニ對空戦ノ喫差砲戦ノ要訣ナリ

本海戦ヲ通シテ視界不良乃至スル來龍ノ為敵機ノ密着ヨリ奇能ヲ受ケル場合多ク迅速ナル敵發見射撃開始ヲ絶對ニ必要トナリ而モ之ガ迅速適切ヲ行ハシム原因概テ左ノ如シ

- (1) 電探ノ迅速ナル目標捕捉
- (2) 電探見張自標變換ノ迅速
- (3) 射撃手ト見張機関間連絡ノ迅速
- (4) 射撃指揮官ノ適切砲銃側ノ射撃開始ノ迅速
- (五) 電測指揮官ノ位置ニ関シ
- 電探指揮官ハ艦長見張指揮官ト連絡便シテ敵情不明若ハ見張能力不達或ハ困難トスル方向ニ重テ其ノ置キ電探ノ使用ニ分搜索区域目標變換時機等適切指示シ未發見目標ノ搜索捕捉ニ任シ迅速ニ之ガ敵情ノ關係各部ニ通報スルヲ要ス之ガ爲四周情況通視ニ便ナル位置ニ在ルヲ要ス
- (六) 本海戦ノ如ク攻撃手目標多數ニ場合電探指揮ヲ迅速確實トシムル爲電探指揮所ノ新設ヲ要ス(南洋艦以上)
- (七) 新設場所見張高射艦橋ト連絡ニ便ナル位置(防空指揮所)

(2) 裝備追加器其他機器

I 各電探方向距離受信器

II 羅針儀

III 敵言鳴器

(3) 通信裝置

I 艦長例傳聲管

II 各電探探知機傳聲管若ハ電話

III 對射擊指揮所發令所電話傳聲管

(七) 二號電探裝備位置變更ニ力若測距儀別個ニ使用得ル如クナスヲ要ス

本艦型ハ測距塔上電探ヲ裝備セル為對空戰時孰レ方一才使用中他ハ使用出來ナル狀況ニテ測距目標捕捉後ハ電探ハ別個ニ新目標搜索捕捉ニ努メルルヲ有利トス

見張用電探ノ價值極メテ大ナリモノアリ

本海戦中電探重要報告事項

(1) 對空戰中遠距離ノ料以上編隊ノ動勢

(2) 遠距離近接目標ノ捕捉

(3) 高高度目標ノ捕捉

(4) 太陽方向ノ搜索

(5) 狹視界時視界外近距離ノ料以内目標ノ捕捉

電探防禦ノ特ニ嚴重ナルヲ要ス

至近彈破片機銃掃射對スル防禦ヲ施行シ得ザルニ爲テ左舷ノ

左舷至近彈ニ依リ一三號電探破壊セラレ一時使用不能状態ナル

適當ナル資材ヲ場合ニ兵隊丈ニテモ防護ニ要ス

對スル防禦ハ忘レ勝タルヲ以テ注意ヲ要ス

(5) 應急彈臺以外ニ砲室供給所ニ所要彈臺増設ヲ要ス

今時戰鬥ニ於ケル如ク對水上對空等頻繁ニ目標變換アリ其都  
 度水上彈對空彈ノ彈種變換ヲ要スル場合上下部揚彈筒機  
 内彈丸ハ急速揚換ハルト不能ノタメ一旦砲室供給所ニ揚  
 置クモ回避運動ニ依ル大轉舵ノ多艦ハ大傾斜シテ同所内彈丸ノ  
 處理極メ困難トナル故ニ砲室ハ十二箇供給所ハ約二十箇程度  
 ノ簡單ナル彈臺ヲ増設シ彈種變換ニヨル揚彈筒機内彈丸ノ一  
 時處理シ時機得次第卸ス如クセシノ混亂ヲ防止得レモト認ム

(二) 番砲塔供給所ノ揚彈藥機用電路接斷器及發停器ノ位置ヲ  
 内側ニ變更スルヲ要ス

供給所外板ハ極メテ薄ク之ニ裝備セル各電路接斷器ハ一番砲塔ノ  
 發砲並ニ至近彈丸ノ爆風ヲ受テ取付部破損シ一時使用不能トナリ  
 内側横壁ニ位置變更ヲ要ス

(三) 砲室並ニ供給所ハ必要以上ニ裝藥ヲ滞留セラルヲ要ス

屢次戰訓ニモ示セラル所ナルモ彈藥殊ニ裝藥ハ射撃時間合フ程  
 度以上ニ供給セラルヲ要ス十月二十五日爆彈至近彈々片ニ番砲塔  
 後方ヲ所ヨリ母負通灼熱セル彈片ハ四散シ準備裝藥(各砲二箇宛  
 四箇準備セリタリ)ニ箇ニ命中燵煙ヲ發スルニ至リ砲員中六七  
 名ノ負傷者ヲ出シタルモラ出スルコトナク冷靜迅速ニ海中投棄シ大事  
 ニ至ラズ處理スルヲ得タリ此ノ際多數ノ裝藥ヲ積載シ置カバ重  
 大事事故ヲ惹起セシラン本艦砲塔ニ於テハ各砲ニ發分ノ限度トシ  
 其レ以上ノ準備ハ被害局限上絶對不必要ト認ム

(三)二十五日戦斗ノ實蹟ニ徴シ晝間ニ於テモ突曉砲戰與雷戰ノ準  
 備ニ関シ萬遺憾ナキヲ要ス特ニ視界狭少時然リトス

第十類 水雷戰及關係兵器施設

(一)晝間與雷戰ハ味方制空権ヲ獲得シテテ限リ砲彈以外常ニ  
 敵航空機ノ雷爆銃撃下ニ於テ要員施スルヲ覺悟セサルベカラズ之ガ



爲發射運動等意ノ如クナラズ發射ノ好機轉瞬ノ間ニ去來スル  
 ヲ常トス之ヲ把握ヲ誤ラザルニ肝要ナリ  
 又發射關係兵器ノ被害外ニ多ク射兵ニ到達千載一遇ノ  
 發射ニ際シシノ全能力ヲ發揮シ得ル場合少カラス重要箇所ノ  
 防護施設ヲ更ニ強靱トモノ改ムル要アリ  
 本海戰ニ於テ本艦ハ發射始メ下令後發射瞬前ニ於テ一番聯  
 管三番管維持起動用氣筒唧子直機銃彈ヲ受ケ應急處  
 置ノ暇ナク該管不發ニ終レリ  
 又二十五日後對空戰事ニ於テ右舷至近彈三發及戰鬥機ノ  
 機銃掃射ニ依リ一番聯管右舷旋迴輪下方ニ格納シテシテ裝填  
 魚雷爆發火筒爆發(推定)上同時爆發彈々片一番管C及  
 D部接合部ニ命中魚雷氣室ニ母貝タル爲瞬時ニシテ火火ニ  
 包マレ全員大火傷ヲ負ヒ砲臺附以下十四名戰死者ヲ出セリ之ハ

- 爆發發火格納所ノ不備ニ依ルモノニシテ再三新設ヲ要望セルニ拘ラズ飛行甲板下ニアル故ヲ以テ却下セラレタルモノナリ
- 之ヲ要スルニ少クトモ機銃彈及爆彈々此程度ノモノハ防ギ得ル積ニ改ムル要アリ 尚外側發射管ノ下側方ニモ防彈板裝備ヲ要ス
- (二) 第二空氣ノ火災ハ慎重ニ處理ヲ要シ且之ガ教育ヲ乘員ニ徹底セシメ置クヲ要ス 應急員、聯帶員ニ對シテハ常ニ之ガ處置ヲ徹底セシメ置キタル爲今火災ノ際ニテ迅速確實ナル處置ニヨリ數分ヲ出ズンテ鎮火セシメ被害ヲ局限シ得タリ
- (三) 聯帶内電路接續筐ノ取付場所ヲ甲板置クヲ可ト認ム 單ナル彈片等ニ依リ全電路使用不能トナリ特ニ追尾發射等ニ於テハ其ノ影響音ナル所極クテ大ナリキ
- (四) 宵戰ニ於ケル照準發射線想以上ニ困難ナリキ 本海戰ニ於テ本艦敵空母(三隻編隊)ノ一番艦ヲ照準シテアリカ

敵驅逐艦ノ煙幕長張、敵機雷爆銃撃ヲ熾烈ヲ極メ之ガ回避、自  
 艦發砲ノ砲煙並ニ敵艦ノ發射ニ逼ラセ之ガ回避ニ依リ目標捕續  
 スヲ困難ニシテ且一番艦ハ次第煙幕裡入り一時射手ハ目標ヲ  
 見失ヒ直チニ二番艦ニ目標變換發射セリ  
 尚此ノ間指揮盤助手戰死セリ教育訓練ハ絕對必要ニシテ技  
 能教育モサルニテ下ニ精神教育ノ更ニ重要ナルトテ痛感セリ

第十一類 防空及関係兵器施設

(一) 主砲對空戰鬥能力向上、タメ偵照準具並直九四式五型) 動搖修  
 正量ノ増大ヲ要ス

主砲對空戰鬥時避彈運動(變針)ニシテ大傾斜ヲ為シ動修手輪極  
 限(0度)ニ達シ照準不能トナリタルト屢テ修正量ヲ五度ニテ  
 可能ナル如ク改造ノ要アリ

(二) 主砲對空戰鬥能力向上、為射撃塔及各砲塔旋回用電動機

力量増大ヲ要ス

主砲對空戰鬥時上記旋回能力不足、為特ニ避彈變針時傾斜、際旋回速度遲ク照準不可能トナリテ再三シテ對空戰鬥能力向上是非旋回電動機能力増大ヲ要ス

射撃塔旋回電動機現力量ニ五KW一何モ現在一五—二倍砲塔旋回用電動機現力量三〇五KW程度ヲ要望ス

三) 増備機銃ノ效果極クテ大ナルモ、リシテ、確認ス

今次對空戰鬥ニ於テ防空完璧トハ云ヒ得ケルモ、ア號作戰當時此シ機銃増備ニ依リ對空戰鬥能力ノ向上極クテ大ナルモ、アルヲ

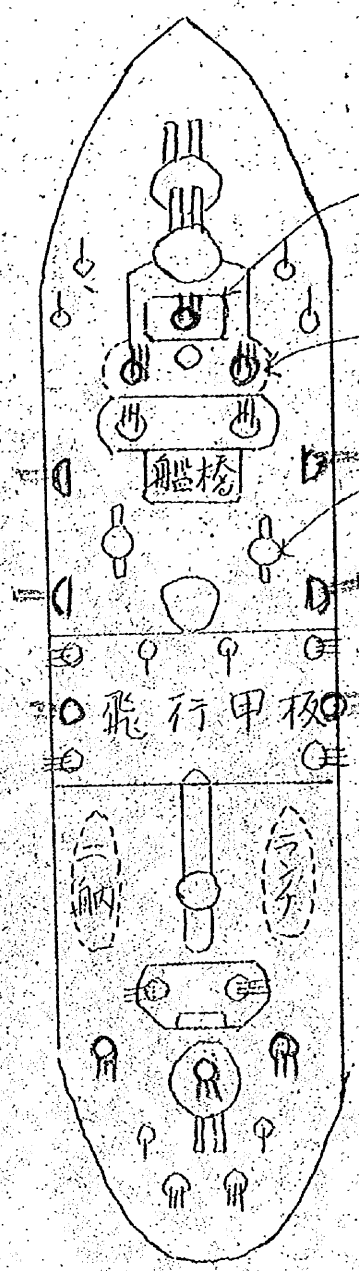
確認セリ

四) 對空砲火ノ完璧ヲ期スル為ニ更ニ對空兵裝強化ニ要アリ

機銃増備ヨリ相當ノ對空砲火充實セルモ更ニ左ノ對空兵裝ヲ要ス

(五) 對空戰鬥能力向上之機銃對空防禦鋼板裝備之要アリ

① 現裝備單裝機銃  
 ② 現裝備三聯裝機銃  
 ③ 增備換裝三聯裝機銃  
 ④ 增備換裝十糎高角砲  
 ⑤ 防禦鋼板裝備之要アリ



待機所

セルター甲板

四米半測距儀

二聯裝十糎高角砲片舷二基計四基(現八糎換裝)  
 三聯裝五糎機銃八基(現單裝八基換裝)

今次戦斗ニ於テ至近彈及機銃掃射ヨリ機銃負傷意外多  
 数ナリニ鑑ミ機銃ニ對スル防護ハ是非必要ナリ

(六)各高角砲指揮所及各機銃群ニ夫々對空専務見張員ヲ配セラレ  
 對空戦斗能力向上ニ資スル所極メテ大ナルモナリタリ

十九年九月機密士戰隊命令ニヨリ銃側ニ對空専務見張員ヲ配  
 セラレタル所今次戦斗ニ於テ對空砲戰機因自体見張能力向上  
 求敵攻撃能力強化セラレ目標變換其ノ砲戰指揮ヲ迅速容易  
 且適確トシメタリ

(七)對空砲戰ニ於ケル指揮通信ハ特ニ機銃ニ於テ視覚艦体通信ヲ  
 主用スルヲ可トス

今次對空戦斗ニ於テ徹底的ニ之ヲ活用シ高角砲機銃群射撃  
 指揮円滑ニ行ハ通信装置不備ヲ感ザルヲトナク戦斗ヲ實施  
 セリ

(八) 彈倉充填以外、機銃彈、彈倉充填容易に如く準備置くと要す。

彈倉充填以外、機銃彈、彈倉充填順序通常彈曳跟彈配合、彈藥箱詰替へ之ヲ銃側附近待機所ニ格納置キ、戦斗合間ニ彈藥補給並ニ彈倉充填ヲ實施セルニ迅速容易ニ行得ル長時間連續セル對空戦斗中極ク好成绩ヲ得ル。

(九) 五耗機銃改造打針使用実績

改造打針使用機銃四五門中折損セルモノ、本何とモ、發程度發射後ニテ從來ノ打針比シ強度極ク大ナリ、尚折損箇所ハ打針先端一其ノ他部ニナリ。

(十) 機銃員、充分満足並ニ配員ヲ是非必要トス。

水雷科飛行科(整備員)其他他科ヨリ兼務員以テ補充スルモ

尚各銃一乃至二名ノ缺員ナリ所銃員損傷セル際射撃ノ可能ハ  
 機銃モ銃員ヲ失フニ至リテナリ對空戰斗能力  
 向上上寒ハ堪ヘズ特ニ今次戰斗ノ如ク對空戰斗ト水上戰斗ト砲雷  
 同時戰斗ト同時ナル如キ場合他科ヲ人員ノ補充ヲ得ル途ナシ  
 (二)主砲高角砲對空彈定數ノ増加ヲ要ス  
 現在主砲(十五糎砲)零式彈定數一門四〇計二四〇ナルモ今次  
 戰斗ニ於テ極力節約ニ努メタルモ二十四二十五二十六三日間ノ對空  
 戰斗ニ依リ殘彈僅カ三七發トナリ補給ノ途ナク此儘次期作戦  
 ニ臨マザルベカラザル現狀ナリ、彈庫ハ更ニ餘裕アルヲ以テ定數ヲ  
 少クトモ現在ノ一倍半乃至二倍トスルヲ要ス八糎高角砲彈藥亦  
 節約ニ努メタルモ過半数消耗シ定數一〇〇〇ノ所殘彈四五トナル  
 定數ヲ一五〇〇程度トスルヲ可ト認ム特ニ本艦型其他ニ融通シ  
 得ル艦ナキヲ以テ定數ノ増加ヲ要スルモノト認ム



(三) 對空射擊時特ニ回避運動中ハ引金秒時ハ長ク引キ可トス  
 對空射擊時ニ於テ一般ニ引金秒時ヲ伸シテ防止セ居ルモ特ニ急  
 速回避運動中ハ照準ノ保續極ク困難ニシテミス多ク發射速  
 度ヲ絶對ニ必要トスル或時機ニシテミスアリ幾分散布界ヲ擴大スモ  
 此際更ニ引金時間ヲ長クスルカ或ハ引金引ソストレミスヲ防止スルヲ  
 可ト認ム

(三) 本艦型防空指揮所ハ極ク狹隘ニシテ操艦上(雷爆)同避輪  
 型陣(保持)不便ナリ。窓硝子大ニシテ亦比較的後方視界良  
 好ナル艦橋ヲ操艦スルニ適當ト認ム猶右ニ伴ヒ艦橋見張  
 ノ強化ヲ要ス

(四) 上空特ニ直上見張ニ對スル施設並ニ見張ノ是對スル関心ヲ  
 昂揚セシムルヲ要ナリ

(五) 至近彈機銃掃射ニ必ズ依テ安快カク執ルヲ要ス

第十三類

對潛水艦戰術交通保護及關係兵器施設

(一)電波管制ハ嚴格ニ實施スルヲ要ス

電探電波ハ警警戒搜索攻撃ヲ目的トセルモ無線線通信電波ト同様嚴重ナル管制ヲ行ヒ敵ノ逆用ヲ去ル意シ警警戒航行中ハ極力探知機利用ニ努ムルヲ可トス 二十三日ノ敵潛被攻撃モBV出撃以來電波哨戒第一配備シテ終始猛烈ナル電波輻射ヲ行ヒソ、北上セル為友軍ノ企圖ヲ察知セリト敵潛ノ前艦進出協同攻撃ヲ有利トシテ疑アリ 電波哨戒配備ノ變換ハ適切ニ定ルヲ肝要トシ又之が因船ヲ定メ敵潛ノ偽購ヲ為スモ一方法ナラカヤト思

考ス  
(二)今次行動中水中聽音器被害ヲ受ル以前ニ於テ整相器一時故障セルトアリ之が分解檢査修理中對潛警戒ニ極トテ不支ヲ感ゼリ又疑ハシキ音源ヲ聽取セル際果シテ潛水艦ナリヤ疑問アル

場合之ヲ暫ク保續聽音セムルマ  
四周一ノ聽音警戒忽シテ比白無ト  
ナリ極メテ危險ナリ

九三式聽音器ニ於テモ整相器ニ箇ヲ併用セバ對潛警戒上極メテ  
有効ナルモノト認ム

利點

(1) 聽音範圍ヲ縮小從ツテ入念ナル聽音ヲ實施シ得

(2) 音源ヲ捕捉セル場合片方ニテ之ヲ保續他人ノ方ニテ四周一ノ警戒

可能

(3) 故障セル場合何方片方ニテ常時聽音可能

(4) 整備容易ナリ

缺點特ニシ

(三) 黎明薄暮時ハ敵潛ニ依ル被襲數多ク俱大ナルヲ以テ總員戰  
斗配置就カシメテ上警戒力ヲ求メ見張(電測)最大ヲ發揮シ

方途ヲ講スル要アリ從來敵意戒ヲ兼テ訓練ヲ實施セラレタリ  
シ各艦狀況ハ適當ナラス

第三十類 通信及暗號

(一)無線兵器ノ分散裝備ニ就キ

今次間斷ナキ對空戰鬥ニ於テ後部ニ擴張セシ空中線ハ全部落  
下ノ一送ニ送ノ送信機ハ長時間ニ亘リ殆ト使用不能ニ陥リ修  
復ノ暇ナク重要通信系ニ連絡確保ニ一時不安ヲ感ジタルモ一受  
ノ二弾電話送話機ニ受ノ九五式短五弾送話機ヲ活用シ此ノ  
苦境ヲ切抜ケ得タリ

右ノ事實ニ徴シ相當有力ナル送信機ヲ分散裝備ス道々大ニ  
有効ナリト認ム

- (二)空中線ノ展張法ニ就キ
- (三)送信(話)用空中線

今次戰鬥ニ於テ送信(話)用空中線ハ敵艦機ノ砲爆撃ニ  
 依ル被害殆ド無ク大部分自艦ノ對空砲火ニ依リ切斷セラレタ  
 ル狀況ナリ 間斷無ク對空戦ヲ實施シテ應急空中線展  
 張ニ甚ク至難ニシテ官品少戰機ニ於テハ通信ニ支障ヲ來リ  
 今次戰訓ニ鑑ミ長波空中線以外ハ後橋桁ニ引揚ルル如ク  
 展張スルヲ可ト認ム

(四)受信(話)用空中線

艦裝當時受信(話)用空中線ハ本ハ前橋ヨリ艦首艦橋前  
 面ヨリニ番砲塔上ヘト展張シテリケルモ對空砲火並ニ操艦上ノ  
 障礙トナルコト以テ本年五月下旬艦内工作ニ依リ防空指揮所  
 兩舷ニ張出桁ヲ設ケ前橋ヨリ同桁ヲ經テ一ニ受一電ニ至ル  
 如ク改造セラレタル爲該空中線ハ自艦ノ對空砲火並ニ敵機  
 ノ機銃射撃等ニ依ル被害皆無ク一キ右戰訓ニ鑑ミ艦橋ヨリ

前由三空中線及引揚索の度藏し可ト認ム

(三)兵器移動物自縛ニ就キ

本戦中第一電話室ニ假裝設備セル所ニ測波燈ニ繋止テ  
タル物ヲ艦首ニ系テ近彈ヲ受ケシ際轉落セリ大轉舵発砲  
命中彈至近彈等ニ依ル激動ニ耐エ得ル如ク細心ノ注意以  
テ嚴重ニ行フ必也ナリ

(四)長時日ニ亘ル哨戒配備ニ於テ暗号員十一名(司令部附共)ニ

テ暗号員ノ疲勞甚クシ且戦隊司令部下ニテハ電報翻譯  
通數比較的少シ第一艦隊暗号部員編成標準ノ員數(三〇  
名)ハ是非共必要ト認ム

(五)習作或翻譯ニ就キ

適當ナル隱語アルヲ以テ平文ヲ使用セル艦多シ暗号ノ作成  
翻譯ニ就キハ一層訓練ヲ要スルモノト認ム

(六) 艦隊戦略行動中並ニ戦術場面ニ於テ現状陸上通信隊より敵潛情報測定機位ハ甚ク消時大ニシテ利用價值少シ之ガ速達ニ関シ改善ノ要ナルモヤリト認ム

(七) 重要報告等ノ確達確認ニ就キ

二十五日ノ敵發見ノ第一艦ハ確達ニ不安アリシ所東通間敷ヲ入ルル放送ニ依リ其ノ確達ノ確認セリ重要戰機ヲ授ケル此ノ種ノ陸上通信隊ノ協力ハ大ニ有効ナリト認ム

(八) マントレストニ就キ

二十五日本艦右舷ノ至近彈ニテ通信指揮室及第一受信室附近ニ飛來セルモノ二十五箇以上ニ及ビ乘込且及相撲マントレスト防護セル所ハ被害皆無キ共材料不足ノ爲實施出來ザリシ電池庫度第二電話室五六天々彈丸ニ依リ被害ヲ受ケタリ重要箇所ニ對シテハ出來得ル限り其ノ改善施スルニ要ス

(九)二十五日海戦ニ於テ超短波ハ敵妨信或ハ混話ヲモクノ相當  
 高感度ニシテ通信困難ナル場合アリタリ(敵通信状況ニ混話ト  
 判断ス)電波選定上注意ヲ要ス  
 (四)今期作戦初頭中火發信ノ作戦ニ無關係ナル極メテ長文ノ壽  
 暗号多數アリテ大ニ困惑セリ暗号法及發信時機ノ選定ニ  
 注意ヲ要ス

### 第三十三類 應急及運用

(一)被害探知並ニ之ガ確認ハ冷静沉着ニ實施シ處置ヲ誤ルルヲ  
 要ス

十月二十日對空戰ニ於テ前甲板右舷ノ至近爆彈言リ一番砲塔  
 供給室ハ煙煙充滿給排氣口ヨリ溢出スルヲ認メ司令官並附近火  
 災ト判定シ一番彈火藥庫ニ對シ注水用意並供給室ノ彈藥ノ  
 處理ニ當リシモ次第ニ煙煙滅シ砲塔依然發砲ヲ繼續シタリ



見テ供給操作ヲ開始セリ之ガタノ供給室並ニ彈火藥庫間一時混亂状態トナレリ之ハ要スルニ爆煙ヲ火災ノ煙煙ト誤認セルモノニシテ沉着冷静ニ被害ヲ探知確認シテ處置ヲ誤ルルヲ要ス  
 (二) 彈藥供給通路ニ應ジテ用毛布敷キ消止トナセルニ効果

大ナルモノアリ

中下甲板ニ火災防止ノタメ海水ヲ撒布濕潤シテ且雷爆較手回避運動ノ為メ角度轉航ヨリ艦ノ傾斜大ナリ彈藥供給時足元極メテ不安定トナルト再三ナリシモ應急用毛布ヲ敷キ適當ニ濕潤セン所如何ナル轉航中ト雖モ容易ニ彈藥ノ供給ヲ實施

シ得タリ

(三) 水雷部員特ニ聯管員ハ完全ニ戦斗服装ヲ要ス  
 今次ニ空火災ニ依ル戦死者ノ全部ガ火傷ニシテ手袋脚絆ヲ着用スルンガ殆ド全部消失ナリ特殊ノ防火衣服ヲ着用

絶對必要ナリ

(四) 今次作戦中暗号室入口 航海科火工兵器格納所火災際暗  
號書搬出 暗号員避難ヲ命セラレタルモ通信指揮室前舷等リ  
ハ暗号書 搬出人員之脱出困難ニシテ火災鎮火迄搬出不能  
ナリキ、前壁舷窓ヲ現在ヨリモ大型ノモノニスルカ左舷前壁ニマシ  
ホルル新設ヲ必要ト認ム

(五) 秘密圖書ノ應急處理方策ハ鍾量附ノ袋ニ收納スル上  
水線下ニ格納スルヲ適當ト認ム(今次戦中ニ於テ本艦ハ水雷  
火藥庫ニ格納セリ)

(六) 航海科火藥火工品庫ハ水線下ニ設置スルヲ要ス 本艦ハ  
敵機ノ掃射彈貫通シ火災ヲ生起セリ

(七) 被害ヲ過大視スル傾向アリ

(八) 至近彈其他被害ヲ蒙リタル場合被害現場附近ノ探知ハ

勿論艦内全般ニ亘リ詳細ニ探知スルヲ要ス

船後部ノ至近弾ニ依リ内務科工業倉庫ノ被害探知ヲ疎漏

ノ結果後ニテリ發見處直セリ

(九) 今回戦訓ニ鑑ミ應急員ノ少キヲ痛切ニ感ゼリ本艦型ニ於テハ

最少限度一々班十五名ノ専務應急員ヲ必要トス

同時被害數箇所發生ノ場合等被害局限ハ覺束ナキ現状

ナリ今回至近ニシテ應急員全員無事ニシテ且又同時被害少

ク防禦ノ本能ヲ充分發揮セリ

(十) 應急員待機所(二三班)研究改善ノ要アリ

(十一) 前部治療所ニ砲彈直撃手シ患者用ノ水筒全部破壊セルヲ

飲料水ニ困却セリ戦斗員ノタメモ艦内ノ各所ニ應急用飲料

水ヲシテ設置シオク必要アリ

(十二) 至近弾ノ片ヲ避ケル爲米袋ヲ居住區其他中甲板各配

置内壁ニ築クヲ要ス

本艦二十五日船側至近彈ニ被リタル際彈片ニ依リ庶務ニテ  
伏セテ姿勢ヲナリシニ名重傷(後戰死)高次所ニテ折敷ニ姿勢ナリ  
一名即死一名重傷(後戰死)伏セテ姿勢ナリシ五名輕傷ヲ負ヒテ  
出撃之際シ米袋三俵(約三尺)ノ高サニ築キ置カバ右被害ヲ防ギ  
得タルモト思考ス

各倉庫ノ鍵ハ出撃之際シ必ズ脱シ置クヲ要ス

被害探知ヲ速クニル必要ナル為ナリ被服庫火災ノ報ニテ直ニ  
探知ニ向ケタルモ鎖鑰嚴重ニテ齋ク破壊錯誤ナルヲ確認セリ

第二十七規則 敵軍ノ特性

(一)米驅逐艦ノ射撃要領

敵米驅逐艦ハ電探ヲ首從射撃ヲ實施シタルモノ如シ本艦ト交戦  
セシ米驅逐艦ニ隻ノ射撃狀況左ノ如シ

射距離一〇〇〇附近ニ於テ初弾近約三〇〇第二弾以後ハ殆ト一〇〇以内ノ遠近トナリ當方避弾運動實施スルモ敵彈着ニ追從極テ良好避弾運動ノ効果激減セル如ク感ズ敵駆ハ一〇浬〇〇六門ニシテ一齊打方使用セズ五秒乃至七秒間隔ノ砲側獨立射方ノ如ク彈着ハ一〇乃至二〇リレヲ以テ比較的カ脅威ヲ感ズルコト少カリキ

射距離ニ比シ射彈精度ノ良好ナル點發射間隔短ク而モ當方ノ避弾運動ニヨリ追從セル點ヨリ考ヘ精度極テ良好ニシテ取扱簡單ナル電探ヲ利用スル電測首從射撃ヲ實施スルモ一認ム

(二) 今回戰例ニ徴スルニ敵ハ被害ヲ受クルヤ否マ先ヲ爭ヒテ離艦スルノ狀況ニシテ落伍セル敵艦ヨリ機密圖書及兵器等ヲ捕獲スルハ極テ容易ナリト認ムラルニ付事前ニ之ガ着意ト準備ヲナシ置クハ大ニ有効ナリト認ム

第三十四類 船体及職装

- (一) 艦橋附近ハ重要兵器多ク且戰鬥配員最ニ周密ニシテ同所附近ノ被害ハ戰鬥力ニ影響スル事甚大ナルヲ以テ少クモ敵機ノ掃射又ハ爆彈ノ小破片ハ堪ハ得ル被害局限ノ施設ヲ要ス
- (二) 揚錨機室後部隔壁ハ今一層強大ナルヲ要ス
- (三) 機銃臺艦橋並ニ重要兵器保護用ノ土囊マントト少ク感アリ之ヲ闕略シテ本艦ニ於テハ機銃ノ増備件ヲ代償重量物ノ陸揚工事未施行ニシテ且又電探哨信儀等増備ニ依リ重点ニ蓋上リ復原性能ハ極ク悪キ現狀ニテリ一度雷撃ヲ被リ浸水傾斜セシ方一艦ノ運命ヲモ左右スベキ重大ナル結果ヲ惹起スベシ
- 揚錨機室被害ニ依リ前部ニ約一〇噸浸水セシ後頻數ニ雷爆撃ヲ回避運動ヲ實施スルニハ節附近面取舵一杯ニテ傾斜十五度ニ達シ取面取舵傾斜ノ度ハ遂ニ感アリ
- (四) 後部機械室給氣口ハ前部機械室排氣ヲ吸込ハ關係上後部

機械室常三前部機械室より温度一二度高し且室内空氣不清淨ニシテ航海中當道負ノ疲勞ニ影響アルト云ク甚カラズ排氣ヲ吸ヒ込メザル様前部機械室排氣口及後部機械室給氣口形能ノ適當ナル改造ヲ必要トス

第三十五類 機関及工作

(一) 機械室消防兼ヒルポンプ。六前部左舷機械室及後部機械室ニ電動式各一台宛アリ更ニ前部右舷機械室及後部機械室ニタノボ式一台宛艤匠計畫下シテ増備ノコトナリ居ルモ現品無キ爲未仕裝備ナリ而シテ現仕裝備ノ電動直立式ハ扇車軸及軸受ノ摩擦耗速カニシテ豫備アルモノハ換仕裝セルモ新造一年ニシテ既ニポンプ能力低下ナリ作戦上ハ此ヲ排除時期制限セルト敵機回避ノ高速急激航一杯ノ操艦ニ依ル艦傾斜ハ此ノ如クハ片舷溢出トナリ運轉上支障ヲ及ボスヲ以テ此ノポンプノ信賴性

八特ニ要求セラルトモ、現状ニハ不安ナシトセム。前機ポンプ  
 一台故障セバ、兩舷前機トモ、ビルヂ排除不能トナルベシ殊ニ  
 今次戦斗ニ一日十八次ノ連続空襲ヲ受ケ、其ノ都度内務  
 科應急準備トシテ消防ポンプヲ起動セルヲ以テポンプノ使用回  
 数並時数極メテ多ク、前部海水ポンプ室被害浸水使用不能  
 トナリテヨリ、八機械室消防ポンプハ一層自負擔加ハリタリ  
 以上ノ理由ニ依リ、消防兼ビルヂポンプノ信頼性ト台数増加必  
 要ニシテ、艦装計畫「ダブル」式ヲ準備困難ナルトモ、電動式ヲ  
 取敢ヘテ計畫台数増備ヲ實現ヲ要ス。

(二) 至近彈或ハ被弾激振ニ依リ、破孔並銼接部地緩等被害甚ク  
 シキニ鑑ミ、罐室舷側上部、重油タンクハ戦斗前使用、戦斗  
 時空虛トシ、重油漏出ニ依リ、罐室火災ヲ惹起セシム  
 カル様重油使用區分ニ関シ留意ヲ要ス。

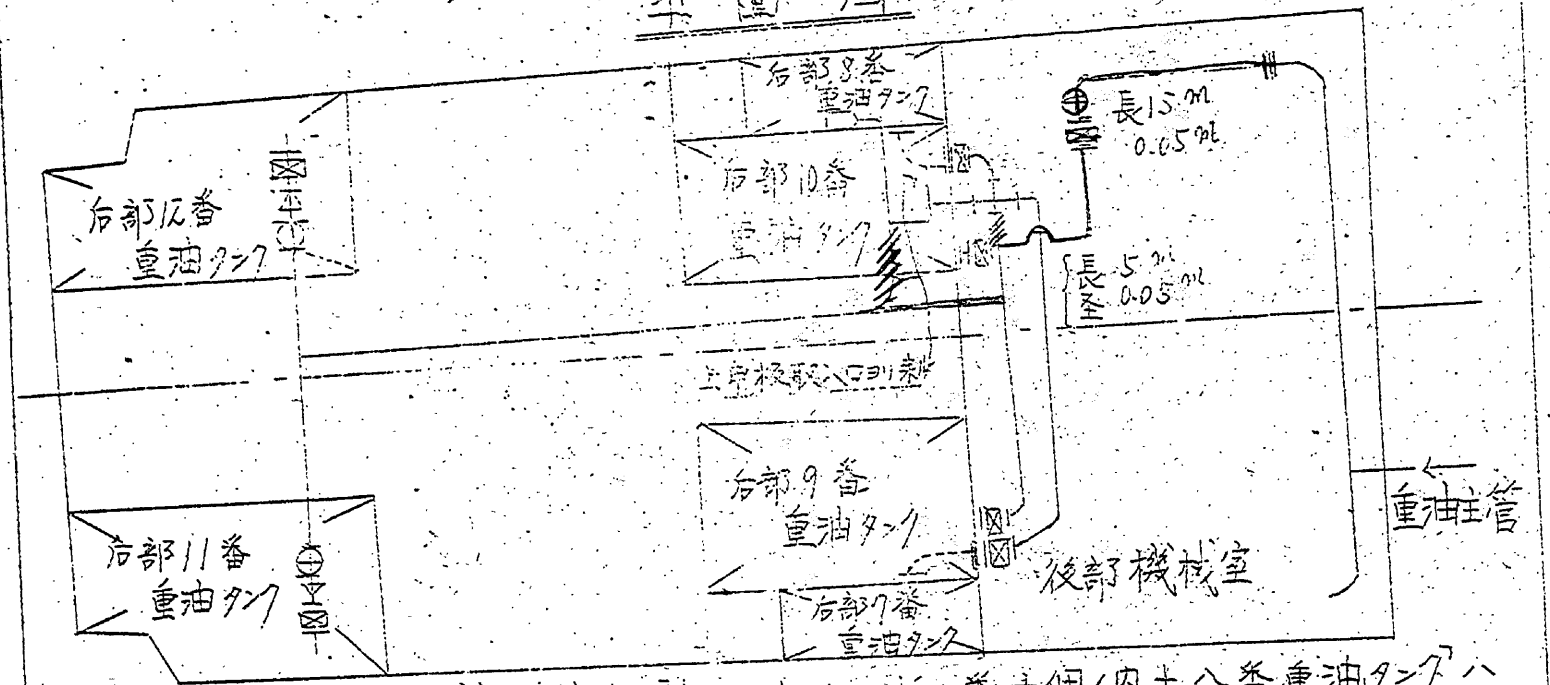


(三) 今次作戦行動中待機速力及蒸氣機関區分運轉ノクハ通  
 常器罐以上(丙)罐ヲ含ムヲ使用スルヲ必要トセルヲ以テ罐  
 部航海直ノ見地ヨリ戦時等ニアリテハ使用罐 器罐ノ時  
 罐汽 釀員六名標準トシテ概ネ三直可能ノ如ク  
 内令第一八七六號ニ依ル阿賀野型臨時増置三名トナルヲ  
 臨時増置十名ニ改ム事アリ

(四) 今次作戦行動中 航續距離延伸ノ策トシテ 前後部各  
 タンクニ重油計百二十吨ヲ搭載使用セリ  
 該タンクニ重油積込取出装置ヲ新設シ狀況ニ依リ重  
 油タンク代用トシテ使用ニ便ナル如クナレ置具クハ必要ト  
 認ム

ディーゼル発電機用重油タンク取入管一部改造略図 軍艦矢矢引

平面図

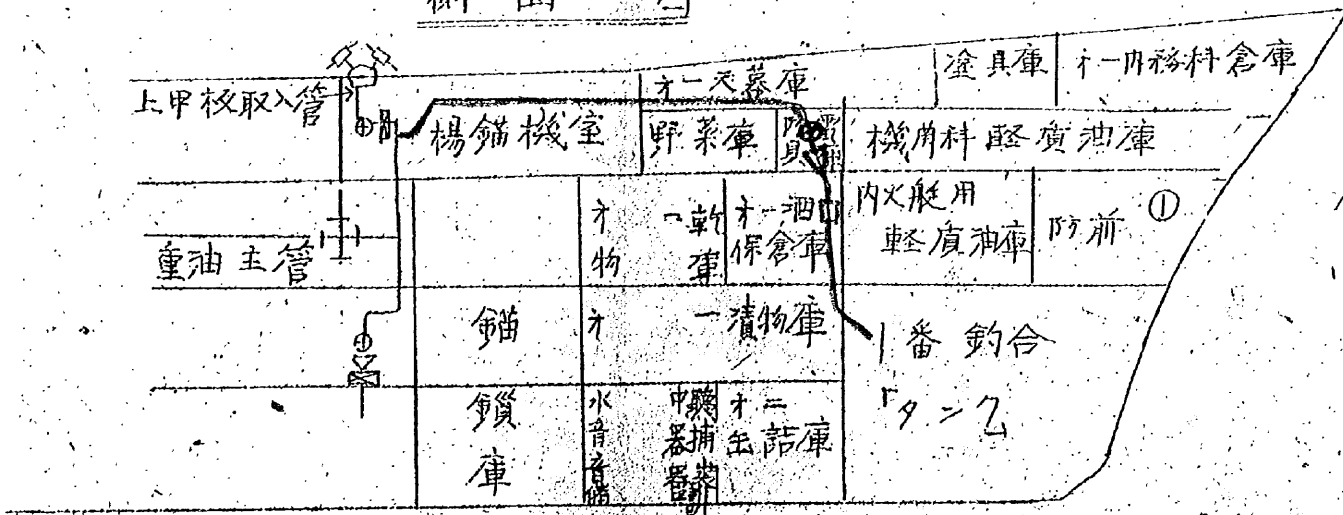


備考 発電機用重油タンク七、八、九、十、十一、十二番六個の内七、八番重油タンクハ  
 現在ノ修ニテ他ハ未用重油ヲ取入シ得ル様機械室取入管ニ接続スベク  
 赤斜線ニ取外シテ装着部

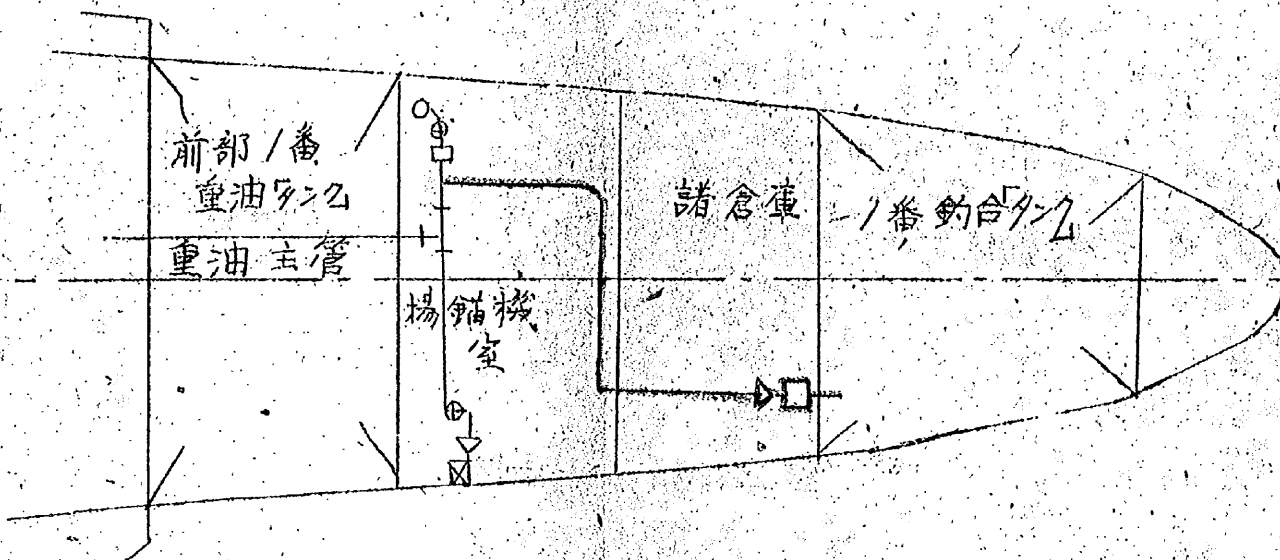
0993

前部/番 鈎合「タンク」重油取入管新設略図 軍艦 矢矧

側面 四



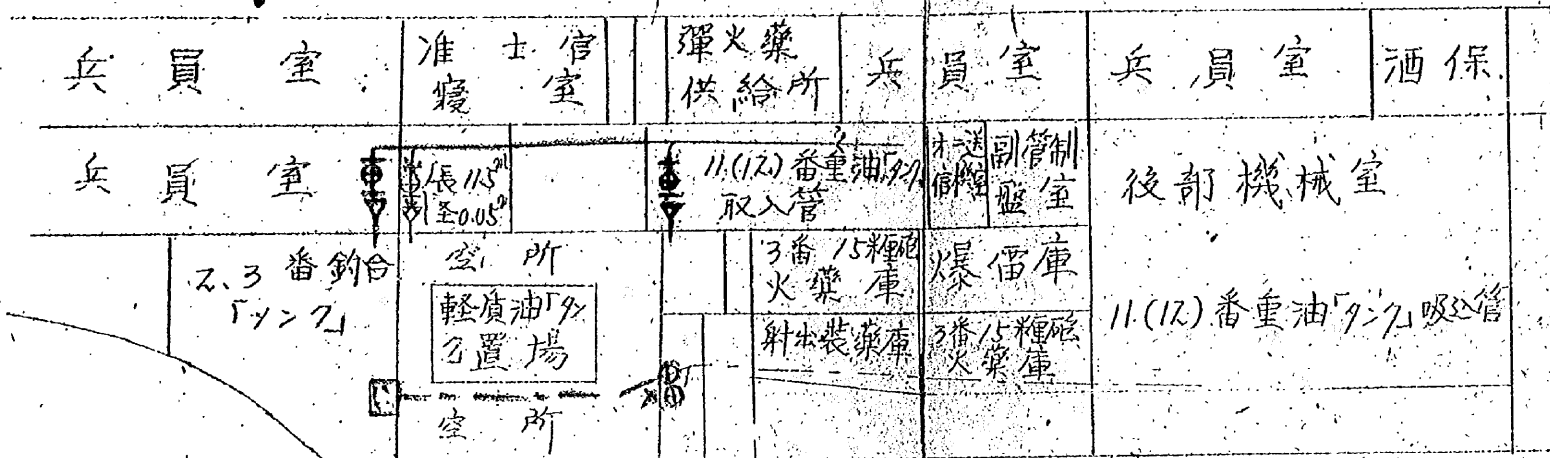
平面 四



備考  
朱線新設管

2.3番釣合「ク」重油取入及吸込管新設略図 (軍艦大知)

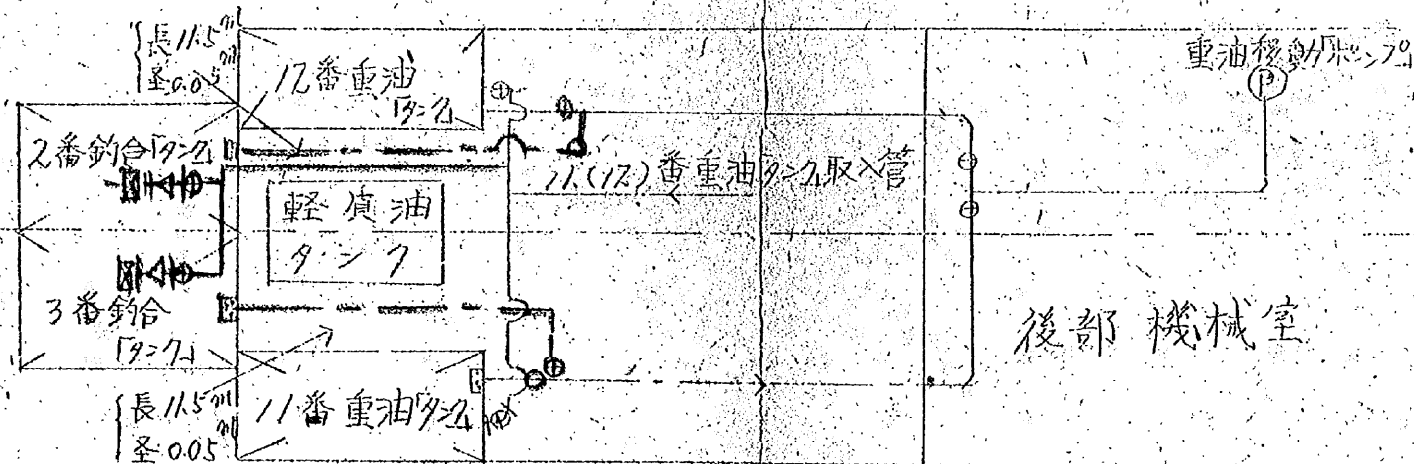
側面図



平面図

備考

取入管  
吸込管  
朱線: 新設管



第三十八類 醫務衛生

(一) 官室(前部治療所) 次室(應急治療所)等、天井ハ一部分ヲ  
 防火塗料ヲ用ヒザルヲ可トス、今回前部治療所ニテ上肢ノ切断  
 術施行中連續對空戦手ヲ振動シタリ、防火塗料ノ剝脱細片飛  
 散落下シ、創面器械類ヲ汚染シ、大ニ困却セリ

(二) 負傷者ノ應急處置ハニ號縮帶小包ニテ壓迫止血極メ適切  
 行ヒ居リタリ、殊ニ止血棒ハ一寸足ガ切断サレ、様ナ大負傷場合ニ  
 用ヒト線返シ教育シ置キタル處之ガ適切ナル使用ニ依リ止血ヲ  
 全ク得タリト認メラレタル上、肢並ニ下肢ノ挫断創各一例アリタリ、適  
 切熱心ナル指導ヲ受ハ、止血棒モ亦大ニ使用セシムテ可ナリト認め  
 (三) スルファミン劑ノ粉末、創面撒布ハ効果著シキモノナルモ、負傷後  
 可及的早期ニ使用セザレバ、其ノ効力ハ著シク減弱ス、本艦ニテハ戦死傷  
 者意外ニ多カリシト、看護員三名負傷セルタメ、手ガ回ラズ、輕

傷者ニテ應急止血處置ノ完全ニ行レザル者ハソノ二次的治療  
ヲ已ムヤク一兩日経テ行ヒシニテマルカシメテ劑ヲ使用スルモ其大部  
分ハ化膿セリ

第三九類

被服糧食用品

(一) 旬日ノ戦斗航海ニ引續キ十月二十五日ヨリ二十六日迄三日間ハ二テ數  
回ニ亘ル對空戦斗並ニ水上戦斗ノ連續ニシテ乗員ハ殆ド食事ヲ攝  
ル餘暇無ク加フルニ意炊所被弾ノ爲ニ二十五日ヨリ一兩日意炊不  
能トナリシ結果僅カク乾麵麴ヲ應急食トシテ攝取セルノミニシテ  
乗員ノ疲労方因懣者シキモノアリ 航中熱糧食ノ如キ煤炭食價高ヤ  
應急食ヲ戦斗前各人ニ相當量所持セシメオクハ必要アリ  
(二) 熱傷患者中戦斗服は完全ニシテ用ガスラスクハ衣服面シヨリタル  
者モ耳部ヲ侵シタル者シ現任ノ戦斗帽ニテ耳後ヲ附シ類冠  
式トオス必要アリ

- (三) 出撃時ニ際シ各種糧食殊ニ米來漬物及飲料(ミルク、缶詰等)ヲ烹炊所附近ニ少クトモ五日分出來得ル十日分格納スルヲ要ス  
 戰鬥航海於テハ艦内閉鎖嚴重ニシテ糧食取出ニ困難シ且  
 敵警戒航行中保海上倉庫ヲ一時ニテモ開放スルハ危険ナリ且戰鬥  
 ニ際シ不時配食烹炊ニ應ズルニ便ナリ一戰鬥行動ハ約一週間ヲ  
 終ラズルヲ以テ五日乃至十日分ノ保有ヲ必要トス  
 本艦型ニ於テハ右ハ分割格納ノ目的モ達スルモノナリ  
 今作戦ニ於テハ右ノ格納ヲ實施シ效果アルモノアリタリ
- (四) 戰鬥配食ニ握飯ノ外ニ缶詰モ必要ナリ  
 戰鬥ニ際シテハ飢ヨリモ渴ヲ訴ヘル下切ニシテ握飯漬物ノミノ  
 配食ハ極メテ食難シク缶詰(缶詰、缶詰、缶詰等)ノ配食ヲ切望セウ  
 レタリ機關科ノ要求殊ニ切ナルモノアリタリ
- (五) シロップ、ミルク類ハ豊富ニ準備スルヲ要ス

前項ノ理由ニ依リ戰鬥中ゴート、ミルク等ノ配給ヲ屢行ヒ  
有効ナリキ平時ノ消耗ヲ押ヘ戰鬥時備ヘ準備スル注意カ肝  
要アリ

(六) 應急食 可及的豐富準備シ置クヲ要ス

出撃ニ際シ各配置ニ應急糧ニ乾麴、麵、ト牛肉罐詰ト備ヘ各  
處戰鬥長時間ニ亘リ繼續シ烹炊及配食不可能ナリ右應  
急食ノミヨリ約四十八時間ノ戰鬥ヲ行ヒ漸次各部疲勞増大シ  
殊ニ機械室ニ於テハ屢熱射病ノ危険アリ 前項ノ配給ヲ行  
キ亘ラザル箇所アリテ、應急食トシテ右以外海軍熱糧食ニ類  
スル甘味品、サイダー、其他ノ飲料品等相當量ノ準備ヲ必要  
トス

(七) 戰鬥中ノ烹炊ヲ一時中止スルヲ可トス

二十日ノ至近彈ノ一片ハ烹炊所内蒸氣管ニ命中セルガ



當時汽釀中ナリハ負傷者相常数出タルモノト想像セラルルモ  
停止中ナリシ爲メ蒸氣ニシテ被害ハナカリキ

(ハ)缶詰瓶詰モノ水密ニシテ重ニ検査スルヲ要ス  
船前部直撃受浸水ニ依リ前部各種糧食庫ニ浸水當時格  
納シタルボタミンA及綜合ボタミン等ノ罐ハ被害後十日ニシテ  
取出シタルニ殆ド全部(約セリ缶中無事ナルモノ一缶)浸水使用不  
能ニナリ居レリ混汁用ボタミンC入ノ瓶ハ全部水密完全ナ  
リシモ混汁用ボタミンB入ノ瓶ハ殆ド全部浸水ナリシ

(D) 發射前後目標視認狀況

魚雷發射下令時  
(0850頃)

發射準備完了時  
(0900頃)

發射時  
(0906頃)

魚雷到達時  
(0919頃)

一 空母群ト矢矧ノ中間ニ敵駆逐艦(圖ト別個ノ)ニ後アリ

一 進走中ノ正規空母(艦橋ヲ露シ)一隻

二 方位角 右一四〇度 距離 一七〇

三 進色艦型共ニ煙幕ノ爲ニ詳

一 煙幕ニ依リ艦型ニ認メ得ラル

一 進走中ノ空母煙幕内ニ見火ヲ

一 駆逐艦 煙幕直後

一 正規空母ニ隻 (エコーPライム型) 其ノ後方煙幕ノ爲ニ詳細不明

二 方位角 左三〇度 距離 一六〇

三 空母トニ隻ハ濃黒色ト反色ニテ進歩ヲ施シアリ

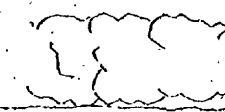
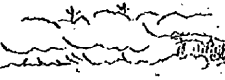
四 味方砲聲ノ水柱ヲ認ム

一 方位角 右二五〇度 距離 一五〇

二 煙幕中ニ敵艦ヲ見クハ巡洋艦ヲシテ艦ヲ認ムルニ至リ時ニ至リ見失フ

一 機銃掃射 煤煙界並ニ自艦發砲ノ砲煙雷爆回避運動ニ依リ照準稍困難ナルヲ辛シク發射(0906ト四〇)

一 一番艦大水柱ト煤煙ニシテ見失フ(0919ト三五) 二 一番艦ハ一番艦命中時ヨリ約一分後敵首ニ大水柱ト見火ヲ認ム(0921ト三〇)



一 正規空母ハ取船ニ回頭ニ駆逐艦或ハ煙幕直後中ニ敵機ノ雷爆銃聲熾烈ニ發射遂艦ト砲聲開始

一 空母群取船反転ニ敵機執拗ナル銃爆果ヲ反覆ス 三 敵駆逐艦七〇〇米附近ニ發射(五本)

一 艦橋掃射熾烈ニ發射艦指揮所附近ニ彈着ス

一 空母群煙幕ノ切目ニ出タル際一番艦ニ魚雷命中時ニ至リ右ニ大傾斜沈没 二 一番艦モ甚北概ニ確實

ノ景廣記  
十月二十三日

五三	五二	四	四	四	四	三	三	三	〇六三	時刻
						金	棒	發		重 要 通 信
28							28	死		
							棋	種		信 文
七〇度ニ左ニ齊回頭	制壓後予定任務ニ就ケ	準備出來次第出發對峙	緊急右三〇度ニ齊回頭	速力ニ〇節	緊急左八〇度ニ齊回頭	緊急右五度ニ齊回頭	針路四〇度			
										重 要 記 事
爆雷戦 愛宕高雄被雷 潜水艦音聴取サレズ 愛宕爆雷投下スルヲ認ム 愛宕沈没ス										
70										針路
2018										力速

〇六五六	〇五九	〇五八	〇五七	〇五五	〇五三	〇五〇	〇四八	〇四六	〇四四	〇四二
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
〇七〇〇	〇七〇〇	〇七〇〇	〇七〇〇	〇七〇〇	〇七〇〇	〇七〇〇	〇七〇〇	〇七〇〇	〇七〇〇	〇七〇〇
旗	旗	旗	旗	旗	旗	旗	旗	旗	旗	旗
緊急左七〇度一斉回頭	緊急左七〇度一斉回頭	緊急左七〇度一斉回頭	緊急左七〇度一斉回頭	緊急左七〇度一斉回頭	緊急左七〇度一斉回頭	緊急左七〇度一斉回頭	緊急左七〇度一斉回頭	緊急左七〇度一斉回頭	緊急左七〇度一斉回頭	緊急左七〇度一斉回頭
三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三〇度方向ニ潜水艦見ユ
我軍獨右ニ回避ス	我軍獨右ニ回避ス	我軍獨右ニ回避ス	我軍獨右ニ回避ス	我軍獨右ニ回避ス	我軍獨右ニ回避ス	我軍獨右ニ回避ス	我軍獨右ニ回避ス	我軍獨右ニ回避ス	我軍獨右ニ回避ス	我軍獨右ニ回避ス
九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ
一應反転サレテハ如何	一應反転サレテハ如何	一應反転サレテハ如何	一應反転サレテハ如何	一應反転サレテハ如何	一應反転サレテハ如何	一應反転サレテハ如何	一應反転サレテハ如何	一應反転サレテハ如何	一應反転サレテハ如何	一應反転サレテハ如何
九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ	九〇度方向ニ潜水艦見ユ
緊急左四五度一斉回頭	緊急左四五度一斉回頭	緊急左四五度一斉回頭	緊急左四五度一斉回頭	緊急左四五度一斉回頭	緊急左四五度一斉回頭	緊急左四五度一斉回頭	緊急左四五度一斉回頭	緊急左四五度一斉回頭	緊急左四五度一斉回頭	緊急左四五度一斉回頭
三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	三〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス
緊急右三〇度一斉回頭	緊急右三〇度一斉回頭	緊急右三〇度一斉回頭	緊急右三〇度一斉回頭	緊急右三〇度一斉回頭	緊急右三〇度一斉回頭	緊急右三〇度一斉回頭	緊急右三〇度一斉回頭	緊急右三〇度一斉回頭	緊急右三〇度一斉回頭	緊急右三〇度一斉回頭
予定航路側方中心ニ切り変	予定航路側方中心ニ切り変	予定航路側方中心ニ切り変	予定航路側方中心ニ切り変	予定航路側方中心ニ切り変	予定航路側方中心ニ切り変	予定航路側方中心ニ切り変	予定航路側方中心ニ切り変	予定航路側方中心ニ切り変	予定航路側方中心ニ切り変	予定航路側方中心ニ切り変
針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ	針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ	針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ	針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ	針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ	針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ	針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ	針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ	針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ	針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ	針速ニ淺ク海面ヲ避ケルヲ
可ト認ム	可ト認ム	可ト認ム	可ト認ム	可ト認ム	可ト認ム	可ト認ム	可ト認ム	可ト認ム	可ト認ム	可ト認ム
二六節即時待機トセ	二六節即時待機トセ	二六節即時待機トセ	二六節即時待機トセ	二六節即時待機トセ	二六節即時待機トセ	二六節即時待機トセ	二六節即時待機トセ	二六節即時待機トセ	二六節即時待機トセ	二六節即時待機トセ
〇度ニ右一斉回頭	〇度ニ右一斉回頭	〇度ニ右一斉回頭	〇度ニ右一斉回頭	〇度ニ右一斉回頭	〇度ニ右一斉回頭	〇度ニ右一斉回頭	〇度ニ右一斉回頭	〇度ニ右一斉回頭	〇度ニ右一斉回頭	〇度ニ右一斉回頭

能野飛行機発進ス  
 鈴谷飛行機ニ機発進ス  
 左三〇度摩耶ニ雷跡命中ス  
 右三〇度雷跡ヲ認ム  
 艦内戦車閉鎖完了ス  
 摩耶沈没ス

戦車用意

0°                      325°                      0°

三六	三五	三三	三二	三二	二九	二八	二七	二六	二三	二二	二二	一八	一五	一四
大和	能	金	能	金	金	金	金	大和	金	金	金	大和	金	大和

								28						
--	--	--	--	--	--	--	--	----	--	--	--	--	--	--

我針路ニ六〇度	七〇度方向ニ潜水艦見ユ	一斉回頭之字運動始メテ	三五度ニ左一斉回頭	二〇度方向ニ潜水艦ヲ聴知ス	離八軒	吾度ニ左一斉回頭	吾度方向ニ潜水艦見ユ距	東ニ廻レ	光	三三〇度方向ニ潜水艦見ユ	三三〇度附近ニ潜水艦アリ	緊急右四五度一斉回頭	三〇度ニ右一斉回頭	針路三五度速力ニ四節	三〇度方向ニ潜水艦見ユ
---------	-------------	-------------	-----------	---------------	-----	----------	-------------	------	---	--------------	--------------	------------	-----------	------------	-------------

魚雷音小サリナル	右三三度ニ魚雷音ヲ聴取ス	三三〇度ニ魚雷音ヲ聴取ス	雷跡ヲ右五〇度ニ認め距離	四軒方位角右五〇度	能野飛行機ヲ發進ス
----------	--------------	--------------	--------------	-----------	-----------

50	35°	45°	25°
		24	

元	六	三	六	七	一	一	八	五	三	四	〇
金	金	金	金	能	能	金	金	金	金	金	岸渡
10s	2B	17B	2B	10s	2B	10s	2B	10s	2B	17B	
									旗	話	
									速力 二節	大和 旗艦 変更 予定	
									速力 二節	島海 二節 指揮 下入	
									速力 二節		
									速力 二節		
									速力 二節		
									速力 二節		
									速力 二節		
									速力 二節		

第二三警戒航行序列  
 位七五  
 右三〇度一斉回頭  
 速力二〇節  
 二〇節即時待機上七  
 三五度一左一斉回頭  
 六五度方向に大型機を三機探知  
 知覚感度二  
 三五度方向に飛行機三機を射撃  
 波アリ  
 第二配備トナ  
 灯火戦斗管制用具ヲ收ム



400T

百二十六	二十七	二十八	三〇	三一	三三	三六	三九	四三	四五	四八	五二	二〇五	〇六
金								矢	金	金		金	金

旗	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	旗	旗
度左一有回頭	緊急右四五度一有回頭	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	三五〇度左一有回頭	速力二四節

改毒	砲毒始ム	砲毒始ム	雷毒機編隊左四五度高角一度九	料向ツテ来ル	艦爆八機榛名ノ上空通過	榛名砲砲ス	雷毒機編隊遠カカル	其場ニ休ム	第二配備トナス	配置ニ就ク能代砲ス	筑摩砲ス	對空戦中
----	------	------	----------------	--------	-------------	-------	-----------	-------	---------	-----------	------	------

110°	350°	130°	40°
20	16	18	22



〇七	〇八	〇九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇							
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇

夫 金 能

我單獨右回避  
 右三〇度一斉回頭  
 我針路一五〇度  
 七〇度左一斉回頭  
 七〇度方向飛行機見  
 一〇〇度右一斉回頭  
 一〇〇度右一斉回頭  
 一〇〇度方向潜望鏡見  
 緊急右九〇度一斉回頭  
 反転セヨ  
 我取舵ヲ取ル

飛行機四機右七〇度  
 主砲砲臺始ム  
 打方待ツ水平爆臺機上空通過  
 左五五度三機編隊ヲ避退セヨ  
 編隊左三〇度遠下カル  
 打方待ツ  
 其向ニ休ム  
 潜望鏡右八度六料ヲ認ム  
 爆雷戦潜望鏡右進ム右三  
 八度ニテ全没ム  
 右八度感一

一三三	三二	三五	三六	三九	四一	四二	四三	四四	四五	四七	四九	五一	三〇	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三
野分	矢	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	長	羽	金	矢	金	金	金	金	金

光 潜水艦ヲ攻島セヨ  
 旗 一三〇度方向ニ潜水艦見ユ  
 一五〇度方向ニ潜水艦見ユ  
 一八〇度ニ右ニ齊回頭  
 頷 一八〇度ニ右ニ齊回頭  
 味方ニ四節  
 三〇度方向ニ飛行機見ユ  
 二四度ニ左ニ齊回頭  
 緊急右五度一齊回頭  
 六〇度方向ニ飛行機見ユ  
 我單獨右ニ回避ス

潜水鏡左八度見ユ直ッ全波  
 聴音器左一〇度感ニ  
 第一配備上支  
 野分爆雷ヲ投射ス  
 配直ッリ右船尾ニ飛行機見ユ  
 金剛ノ上ニ味方陸攻アリ

170	18090	210
2420	2420	24

五三 六〇 四〇 四〇 三九 三三 三三 三九 六六 五三 三三 二八

二四度右一有回頭

緊急左五度又有回頭

我軍獨右三回避  
同右

飛行機編隊右八度雲云ル

編隊約八機右一五度近ツク  
筑摩熊野発砲ス

左二〇度ヨリ本艦へ急降下三機

砲撃始ム

至近彈艦首ヲ落ツ

電源止ル

打方待ツ

揚鎖機室至近彈ノ爲火災

艦爆左〇度六村主砲ヲ撃始ム

艦右ニ代ル

打方止ム

子隊各艦異状ナシ揚鎖機室火災

鎮米満水三米経ノ定アリ

艦爆三機左〇度右角三度

230°

246

24

24

20

三六四 金	一四〇〇 手	〇二 旗	〇九 旗	一三 旗	二〇 旗	二二 旗	二六 旗	二八 旗	三〇 旗
金	手	旗	旗	旗	旗	旗	旗	旗	旗
被善アル向ハシラレ度 軸方向九〇度トセ	我單獨右回避ス	三〇度方向ニ飛行機見ユニ機	九〇度左ニ齊回頭	一〇度ニ左ニ齊回頭					
大和武蔵砲臺始ム 艦爆左三三度改速能ハ勢ヲトル	飛行機本艦上空ニ掛ル砲臺ス 右二〇度ヨリ急降トニ機 艦爆左一〇度遠サカル 岸ニ配備トナス	配置ニ就ク 右三五度飛行機反射感五 大和砲臺開始ス 艦爆六機右三三度 近ツクニ料 友〇度艦爆右角一〇度ニ料同航	艦爆六機右七〇度ニ料右へ進ム 其場ニ休ム						
0°									
20									

三三	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
三三	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇

鳥

禎  
吾度方向飛行機見五乃至機

禎  
三〇度方向飛行機見約三機  
二九〇度右一斉回頭  
緊急右里度一斉回頭

左二〇度三軒艦爆被回中  
揚錨機室補強完了  
左對空戦斗  
左二八度三軒飛行機ラシキ及射  
感五編隊ラシイ  
右八遠サカルラシイ  
艦爆一五機左三二度三軒左へ進む  
艦爆群雲入ル  
雲ヨリ出テ遠サカル  
打方止ム 第二配備トナス  
左二度水平線 煙見エ  
配置ニ就ク

右九〇度三軒飛行機群探知ス

100° 105°  
24.20 20

一四九	一五〇	〇二	〇四	〇六	一〇	一一	一三	一六	一八	一九	二一	二二	二五	二六	二八
金															

須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須
緊急左八〇度一斉回頭	同右(四〇度)	同右(三〇度)	同右(三〇度)	同右(三〇度)	同右(四五度)	我單獨右三回避ス	吾度ニ緊急一斉回頭	緊急右四〇度一斉回頭	緊急左四〇度一斉回頭	針路六〇度	緊急左六〇度一斉回頭	一〇〇度ニ右一斉回頭			

對空戦中 金剛發砲ス	艦爆〇機見エ	艦爆群右〇五度ニ移リ	左三五度急降下ニ移ル	編隊ハ二隊ニ分離ス	艦ノ隊ハ龍巻態勢ヲトル	砲臺始ム	雷車機四機右三五度ニ認ム	本艦ニ急降下	左九〇度一機墜	艦爆〇機右一五度遠サカル
------------	--------	------------	------------	-----------	-------------	------	--------------	--------	---------	--------------

〇

180

24

一七〇八	一六六	五〇	三九	三八	三三	三〇	三〇	三〇
金	金		金	金	金	金	金	金

2B

旗 七五度方向ニ飛行機見ユ  
 五五度方向ニ飛行機見ユ  
 第三警戒飛行序列別法ニ

旗 〇度ニ右ニ有回頭  
 靖相公武蔵艦長ノ指揮ヲ  
 受ケ之ガ警戒ニ任ズベシ  
 旗 三〇度ニ左ニ有回頭

雷艇機右二〇度遠カカル  
 打方止ム 其ノ場ニ休ム  
 大和発砲ス  
 左六〇度ニ三料感度四直ツク  
 艦爆一〇機左八度ニ六料同航

右六〇度ニ二機遠カカル  
 鳥海発砲ス 艦爆一四機右二五  
 度直アリ  
 右一四〇度遠カカル  
 第三配備トス

配量直ニ就ク

四八	四六	四四	四三	三九	三五	三五	三二	二六	二〇	一八	一七	一六
金	金	機	機	金	機	機	機	機	機	機	機	金
									100			20
												順
三〇度右一斉回頭	三〇度方向一飛行機見エ	三〇度左一斉回頭	三〇度方向一飛行機見エ	三〇度方向一飛行機見エ	三〇度方向一飛行機見エ	三〇度方向一飛行機見エ	三〇度方向一飛行機見エ	三〇度方向一飛行機見エ	三〇度方向一飛行機見エ	三〇度方向一飛行機見エ	三〇度方向一飛行機見エ	三〇度方向一飛行機見エ
飛行機遠カカル大型機ヲ見	右一〇度方向一飛行機左一〇度方向一飛行機見エ	對空砲戰	編隊遠カカルヲ見エテキル	飛行機ノ反射波右一五度感セン	二一機	六機編隊ノ飛行機左一三〇度方向一飛行機見エ	同航ス	右一〇度方向一飛行機見エ	同航ス	右一〇度方向一飛行機見エ	右一〇度方向一飛行機見エ	右一〇度方向一飛行機見エ
110°		90°				110°						
		34				10						



五七	二一	五三	四三	四五	四三	八四二	一五	八〇三	七八
		山		金					野分

旗三〇度方向へ飛行機見エ

旗我針路二〇度

天佑ノ外確信全軍穴裏也

右五度三料一式陸攻見エ  
其ノ場ニ休ム 灯火戦車管制トス

配置ニ就ク島海峯砲ス  
對空砲戰用意

右三〇度飛行機ノ反射感五  
飛行機遠カリソノ解ニ行ク

左一三〇度一凡料  
左一五〇度遠カリタル

其ノ場ニ休ム  
第二配備トス

70

1010

十月二十五日

0 六四〇	四二	四三	四四	四五	四六	四九	五〇	五三	五四	五六	五九	〇 七〇〇
熊ノ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
旗	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
旗	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

110

24

旗 三〇度方向ニ飛行機見ユ

〃 一四〇度方向ニ飛行機見ユ

敵見ユ我ヲリノ方位三〇度 〃 八四度

空母一隻又其他約十隻見ユ

旗 第十戦斗序列ニ占位セヨ

配置ニ就ク

左三五度敵機ニ機向ツテ来ル

飛行機ハ丁巳日

左四五度戦艦ランキマス上ニ本見ユ 最大戦速即時即機トナス

左〇度空母ヲキ艦影見ユ

戦斗砲戦魚雷戦用意

空母三隻 飛行機発艦準備ヲセリ

敵ハ面舵反転セリ敵針〇度

大和砲戦ヲ開始ス

敵空母反転反航ナル飛行機発艦中

對空砲戦用意

金剛橋名發砲ス

元	元	三	三	三	三	北	西	三	〇	〇
戸	大			戸						
17B	和			17B						
17B				17B						
話				光						

敵空母東

我大巡ヲ轟沈ス

各隊全力ヲケテ東方へ突  
込テ進軍方向ヲ七〇度

第三戦速トナス

艦爆機左七〇度左へ進む  
 大和ノ砲弾命中シテ  
 對飛行機砲撃ヲ開始ス  
 右七〇度及二〇〇度ヨリ飛行機突  
 込シテ來ル  
 一時起動弁閉ム第三戦速トナス  
 右艦尾ヨリ艦爆本艦へ急降下  
 艦爆左四〇度ヨリ本艦上空通過  
 右艦尾ヨリ本艦へ急降下爆撃  
 無線線切根 第三戦速トナス  
 打方待ツ  
 スコール 中ニ入ル  
 打方止ム  
 左四〇度留置機ヲシテ飛行機ヲ認め  
 砲撃ス 艦ヲ艦尾へ去ル

70°

26°

1019

1018

三〇	元	二八	二三	一七	一五	九	〇六	〇八〇二	五八	五六	五四	四三	四〇
							P	鉛					
							17B						
							17B						

全軍突進セヨ

敵空母一隻及び中隊見たり

右二五〇度ヨリ本艦ニ急降下打方始  
 今ヨリ突進スル  
 第四戦速トオス  
 大和飛行機一機發進ス  
 右艦首ヨリ艦爆突込シテル機銃  
 射撃ヲ始ム  
 飛行機左五度高角八度右八度  
 主砲艦首ヲ右行ク驅逐艦ニ對  
 シ打方始ム  
 飛行機四機左四五度ヨリ急降下  
 艦橋附近ヲ機銃掃射ニ名艦橋  
 ニ於テ戦死ス

スコールヨリ出ル  
 長門對飛行機砲撃始ム  
 左五度高角一五度艦爆ニ對シ砲  
 撃ヲ開始ス  
 右四〇度ニ敵巡洋艦見ユ

195°

90°

28